

Weekly-Report



C X 週間展望 (7月19日~)

調査課 菊川 弘之

ドル・円(1)

【先週レビュー】

先週レポートで「米国債利回りが下落しており、ドル円の上値が抑えられている。米経済指標が事前予想を下回り、前回から下振れするケースが目立ち、景気回復の動きが頭打ちになると

の警戒感が広がりつつある。また、インフレについては、FRBの主張通りに一時的な上昇というシナリオが強まりつつある状況が、米長期金利の低下傾向の一因。今週は、米CPIが予定されている。前年比で4.9%、コア指数は4.0%が見込まれているが、インフレ上昇は一時的との見方に傾きつつある中、強い数字にどの程度の反応を示すかは不透明。

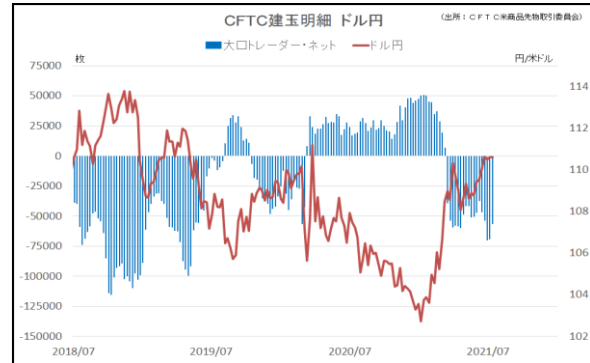
ユーロドルが1.17水準で底打ち感を見せており、1.2000水準を回復できるか否かにも注目。16日の日銀金融政策決定会合は、金融政策に特に変更はないとみられ、市場への影響は限定的となりそうだが、米財務省が同日実施した30年債入札が低調に終わり、米長期金利上昇を受け、幅広い通貨に対してドル買いが広がった。6月の米消費者物価指数(CPI)が前年同月比5.4%上昇と市場予想を上回り、2008年以来約13年ぶりの高い伸び率に上昇したことや、パウエルFRB議長の議会証言を控え、持ち高調整や利益確定目的の円売り・ドル買いも一因。

ドル円は110円台まで値を戻したものの、パウエル議長は14日の議会証言でインフレ加速は一時的との見方を維持し、金融緩和の長期化観測から米長期金利が低下し、日米金利差の縮小観測が円買い・ドル売りにつながった。

6月の卸売物価指数(PPI)は前月比1.0%上昇と市場予想(0.6%上昇)以上だったが、供給制約などの影響が大きく「FRBはインフレ加速は一時的との考えを変えない」との見方がドル円の上値を抑えた。

前日の下院に続き、パウエルFRB議長が15日の議会証言で今の金融緩和を維持する姿勢を改めて示した事で米長期金利が低下し、日米金利差の縮小を見込む円買い・ドル売りを誘った。

比較的ハト派とみられていたサンダース英中銀委員が早期の債券購入プログラム終了の可能性を示唆したことで、ポンド買いが強まる場面もあった。



1
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report

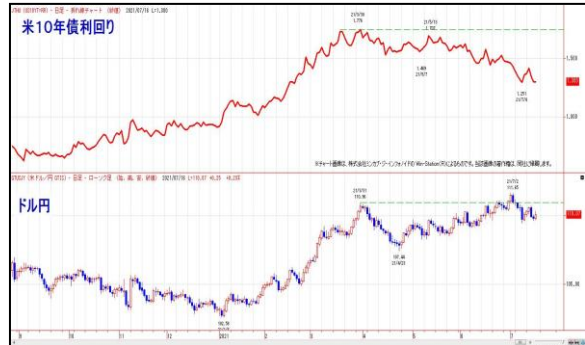


C X 週間展望 (7月19日~)

調査課 菊川 弘之

ドル・円(2)**【週末のNY市場】**

週末のドル円は、6月の米小売上高が前月から増加し、米景気の拡大基調を見込んだ円売り・ドル買いが優勢となった。小売上高は前月から0.6%増え、市場予想(0.4%減)に反して改善。経済再開に伴いサービス関連の増加が続いたほか、家電や衣料品、百貨店などの増加でモノの販売も好調となった。ユーロなどに対してドルが上昇し、対円でのドル買いに波及した面もあった。



新型コロナウイルスで感染力が強いインド型(デルタ型)の感染が世界で広がっており、リスク回避姿勢を強め、ユーロやオーストラリアドルなどに対して流動性の高いドルが買われた。感染拡大が深刻化する英国のポンドに対してもドルが上昇し、円に対するドル買いに波及した。

取引終了にかけて、小売上高の後に発表された7月の米消費者態度指数(速報値)が市場予想を下回り、円が買い直された。

CFTC建玉明細(7/13現在)は、56,250枚の売り越し。前週(69,136枚の売り越し)から縮小。

【今週見通し・戦略】

ドル円は、110円を挟んでの動きが中心となっている。国内では新型コロナウイルスの感染再拡大が続いており、株安、円買いに傾きやすい地合い。

東京オリンピック開催に伴う日本の休場もあり、テロや、サイバー攻撃などで波乱がなければ、ドル円は様子見ムードが高まる可能性も。

動きがあるとすれば、ユーロ絡みか? 6日に18年ぶりとなる金融政策戦略の見直しを発表した欧州中央銀行(ECB)内では、22日のECB理事会で金融緩和策のフォワードガイダンス(将来の金融政策指針)変更案を巡っての意見がまとまっていない模様。市場では早期テーパリング期待があるものの、欧州で広がる変異株による新型コロナの感染拡大の状況もあり、慎重論も見られる。ユーロ圏の国債が買われて利回りが低下しており、ユーロドルの上値を抑える要因となっている。ECB理事会の翌日には、ユーロ圏及び主要加盟国のPMI(購買担当者景気指数)が発表される。

Weekly-Report



C X 週間展望（7月19日～）

調査課 菊川 弘之

金標準先物(7/16 清算値:6,450円)(1)

【前週レビュー】

先週レポートで「米国」（FOMC）要因と「中国」（商品高抑制策）要因のダブルパンチを受けて、大幅安となった金相場は落ち着きを取り戻してきた。

先週は「日本、緊急事態、五輪無観客」のヘッドラインにプログラム売買が、日本株売り・米国債買いで

反応、結果的に1.2%台半ばまでの米長期金利続落に伴う金買いを誘発した。

日足では、内外共にネックライン（NY金：1800ドル水準、OSE金：6400円水準）を上抜き、ダブルボトムを完成。

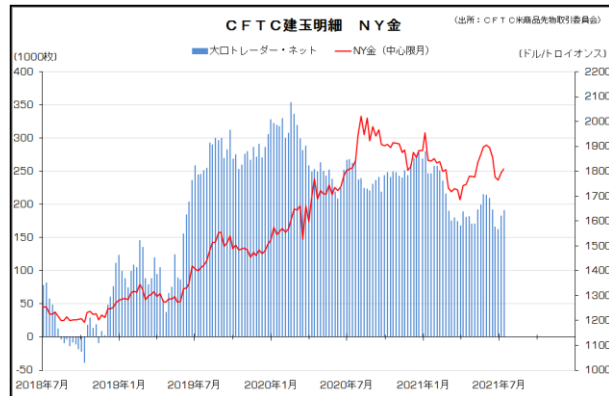
週足では、OSE金が52週移動平均線を週足終値ベースで上抜いているものの、NY金は同水準を回復できていない。市場間で強弱に温度差がある状況で、マザーマーケットであるNY市場が、明確に陽転してこないと、東京市場も独歩高とはなり難い。両市場のダブルチェックでトレンド認識を行いたい」としたが、先週のNY金（8月限）は、新型コロナウイルスの感染再拡大に対する懸念などを背景にしたリスク回避のドル買い・ユーロ売りや、6月の米消費者物価指数（CPI）が事前予想以上の伸びを示したことを嫌気する場面もあったが、売り一巡後は買い戻しや、押し目買いで切り返した。

その後、ニュージーランド中銀が債券買い入れ停止を発表し、ドル安に振れたことを受けて堅調となった。パウエルFRB議長の議会証言を受けて金融緩和の長期化観測が強まり、ドル安に振れたことを受けて上値を伸ばした。

パウエル議長は、下院金融サービス委員会の公聴会で証言し、量的緩和縮小の開始など、支援策の解除は「まだ先」との見解を示した上で、「景気回復が完了するまで」、FRBは金融政策を通じて経済に「強力な支援」を提供すると表明。

内外共に日足では、ダブルボトムを完成し、押し目買い基調が意識された1週間となった。

ただ金ETF（上場投信）残高は引き続き減少しており、買いの中心は先物市場で取引している短期筋とみられる。



Weekly-Report



C X 週間展望 (7月19日~)

調査課 菊川 弘之

金標準先物(7/16 清算値:6,450円)(2)

【週末のNY市場】

週末のNY金(8月限)は、反落。米小売り売上高が事前予想を上回る強気の数字となり、米長期金利上昇から一段安となった。その後、米ミシガン大学消費者信頼感指数が弱気の数字となり、いったん下げ幅縮小。しかし戻り売り圧力は強く、下げ幅を拡大した。米長期金利は低下に向かったが、金の中盤から後半も戻りは限定的で推移した。1810ドル水準は買い拾われたが、軟調地合いのまま引けた。



CFTC建玉明細(7/13 現在)は、190,836枚の買い越し。前週(182,821枚の買い越し)から拡大。

【今週見通し・戦略】

NY金(8月限)は、ネックライン(1800ドル水準)を超えて、ダブルボトム完成。一目均衡表からの上値目標値は、E=1830ドル、V=1841.1ドル。NY金(週足)は、2018年8月安値~2020年8月高値までの上昇に対する38.2%押し水準で下支えられ、反発。

JPX金は、ダブルボトム完成後のリターンムーブからの反発パターン。一目均衡表からの上値目標値は、E=6,513円、V=6,556円。JPX金(週足)は、52週移動平均線を回復し、グランビルの買い法則②となっている。

内外共にダブルボトム完成で、上値試しが期待されるが、本格的な強気感が増すのは、NY金が200日移動平均線や、52週移動平均線を明確に回復してからになりそうだ。NY金と相関の高いユーロの上値の重さも、金の上値抑制要因。

既に欧米市場関係者の一部は夏休みモードに入っており、8月のジャクソンホールフォーラムまで様子見ムードで、東京オリンピック(テロ・サイバー攻撃)や、変異ウイルス「デルタ型」の行方、「OPECプラス」の8月以降の減産動向、イラン・米国との核合意復帰の有無などを見極めようとする動きも要想定。

米上院民主党トップのシューマー院内総務は、バイデン米大統領が超党派と合意した1兆2000億ドル規模のインフラ投資法案について、上院で審議入りに向けた動議の採決を21日に実施すると表明。この行方にも注意。

4
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report



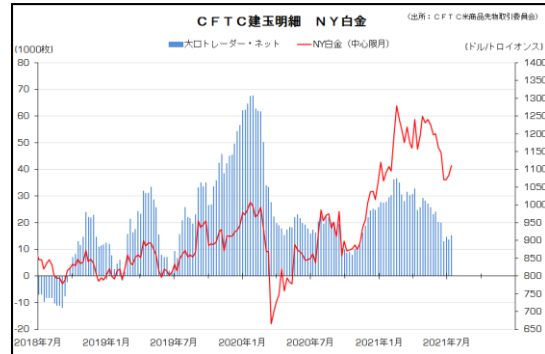
C X 週間展望（7月19日～）

調査課 菊川 弘之

白金先物(7/16 清算値:4,000円)

【前週レビュー】

先週レポートで「東京市場は三角保合い放れ待ち。上放れた場合は、N=4073円、V=4241円、E=4337円が上値目標。一方、下放れた場合、V=3456円、E=3449円が下値目標」としたが、先週のNY白金（7月限）は、新型コロナウイルスの感染再拡大に対する懸念などを背景にリスク回避の動きとなったことを受けて売り優勢となったものの、主要株価三指数の史上最高値更新や、ドル高一服を受けて堅調となった。ニュージーランド中銀が債券買い入れ停止を発表し、ドル安に振れたことや、パウエル議長の議会証言で慎重姿勢が示され、ドル安に振れたことを受けて上値を伸ばした。ネックラインを越えて、三角保合い上放れや、ダブルボトムが意識された。



週末のNY白金（10月限）は、反落。ドル小幅高、アジア、欧州株の下落から10ドルを超える下落で推移した時間外の流れを引き継ぎ、日中取引では、ドル高、金、銀の軟化から一段安となった。米国株の下落も弱材料として加わり、今月12日以来の安値となる1097ドルまで下落した。

CFTC建玉明細（7/13 現在）は、15,361枚の買い越し。前週（13,576枚の買い越し）から拡大。

【今週見通し・戦略】

欧州連合（EU）の欧州委員会は14日、温暖化ガスの大幅削減に向けた包括案を公表。ハイブリッド車を含むガソリン車など内燃機関車の新車販売について2035年に事実上禁止する方針を打ち出した。内燃機関廃止への過渡期でハイブリッド車が増加すると一部で期待されていたが、ハイブリッド車も禁止される。

南アでの暴動や、新型コロナ感染拡大に伴う供給リスク懸念はあるものの、中長期的な触媒用需要の劇的な構造変化が上値を抑える。完全移行までの需給のミスマッチで買われる局面もあろうが、自動車触媒に変わる新たな需要項目が出てくるか、供給障害が本格化してこないか、戻りは売られやすいか？

Weekly-Report

 日産証券

C X 週間展望 (7月19日~)

調査課 菊川 弘之

ゴムRSS3(7/16 清算値:214.9円)

【先週レビュー】

先週レポートで《中国国務院は7日、預金準備率の引き下げ検討していることを発表。5月の中国生産者物価(PPI)は、前年同月比8.8%の上昇となった。景気減速と物価上昇が同時に発生する、いわゆるスタグフレーションに似た動きとなっていることに歯止めがかけられるか否かが焦点。



国内の期近限月は産地対比で「割高」で、当先の鞘は同鞘化。投資主体別売買動向をみると、海外投資家の売りが目立っており、日本売りの流れの中で、薄商いの中、海外勢の玉次第で乱高下の可能性も」としたが、先週のRSS3号は、先週からの流れを引き継ぎ続落となったが、205.3円(7/15安値)の年初来安値更新後は、上海ゴム上昇に追随し、週末にかけて急速に値を戻す展開。

【中国自動車販売台数】

中国汽車工業協会(CAAM)は9日、6月の中国自動車販売台数を発表。前年同月比12.4%減の202万台となり、2カ月連続で前年同月を下回った。今年1~6月の累計販売台数は、前年同期比25.6%増の1289万台。

自動車販売の減速の背景には、世界的な半導体不足があるとみられている。

【今週見通し・戦略】

今年4月同様、RSIは短期的な売られ過ぎ感を示しており、投資主体別売買では海外投資家が買いに回っている。週足一目均衡表の雲の下限で支えられて反発しており、ネックライン~雲の上限を試す流れ。

ただし、中国の4-6月期のGDP成長率は、前年同期比で7.9%となり、事前予想(8.0%)を下回り、前期(18.3%)から大幅な減速。中国の実体経済の減速感が強まれば、上値が抑えられ易い。ゴム手袋需要減退観測や、RSSの出物が多い事も上値抑制要因。一方、タイでは新規感染者数が1万人を超えたほか死者が141人に上り、いずれも過去最多。

Weekly-Report



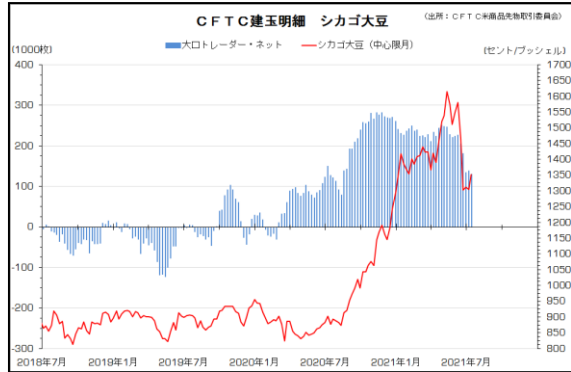
C X 週間展望 (7月19日~)

調査課 菊川 弘之

一般大豆先物(7/16 清算値:56,000 円)

【先週レビュー】

先週レポートで「18州平均の「良」以上の比率が、19/20年度以来の低い水準。この年度の最終的な単収は47.2 Bu。6月需給報告では21/22年度のイールドは50.8 Buに想定されているが、イールド引き下げの可能性」としたが、先週のシカゴ大豆(11月限)は、反発となった。



週末のシカゴ大豆(11月限)は反発。プレーンズの干ばつで、小麦急伸に追随する形で上昇したが、米国の時間帯に崩れて高値からは大きく上げ幅を縮小。ただカナダの干ばつで菜種の騰勢が続いていることに支援された。

CFTC建玉明細(7/13 現在)は、130,640枚の買い越し。前週(139,264枚の買い越し)から縮小。

【週間純輸出制約高(7月8日までの一週間)】

大豆: 31万2500トン(事前予想レンジ: 10万~97万5000トン)

【週間作物進捗報告(7月11日までの週)】

開花: 46%(前週29%、前年46%、平年40%)

着さや: 10%(前週3%、前年10%、平年10%)

「良」以上: 59%(前週59% 前年68%)

「劣」以下: 11%(前週11% 前年7%)

【今週の見通し・戦略】

米農務省は、今回の需給報告で大豆は歴史的な低在庫水準で、最終生産高に影響を与える8月の天候が見えない中、大きな修正は見送りとした。現段階では、6月高値が、天候相場期の天井候補だが、産地の天候次第では、もう一波乱の可能性は残る。仮に、8月にかけて産地の干ばつ等が囃された場合、大豆主導で上値トライする場面が出てくるかもしれない。

Weekly-Report

C X 週間展望 (7月19日~)

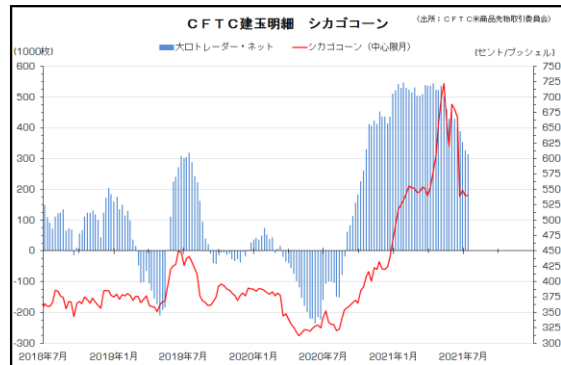
日産証券

調査課 菊川 弘之

とうもろこし先物(7/16 清算値:34,100円)

【先週レビュー】

先週レポートで「7月相場らしいボラ
タイルな動きが想定される」としたが、
先週のシカゴは、米中西部産地の降雨が
少量になるとの予報から大幅高となった。
米農務省需給報告では、生産、期末在庫
見通しが、事前予想の下方修正に対し、
上方修正となった事が弱材料視されたが、
米産地での少雨傾向になるとの天気予報が
出されており、押し目は買われた。



週末のシカゴコーン(12月限)は、続落。プレーンズの干ばつで小麦が急伸したことでコーンも追随したが、引けにかけて大きく崩れた。民間調査会社が米主要州の単収見通しを引き上げたことも、週末前の手じまい売り要因となった。

CFTC建玉明細(7/13 現在)は、312,979枚の買い越し。前週(326,814枚の買い越し)から縮小。

【週間純輸出制約高(7月8日までの一週間)】

コーン: 27万2000トン(事前予想レンジ: 27.5万~90万トン)

【週間作物進捗報告(7月11日までの週)】

シルキング率: 26%(前週10% 前年26% 平年30%)

ドウ率: 3%(前週 — 前年3% 平年3%)

「良」以上: 65%(前週64% 前年69%)

「劣」以下: 8%(前週9% 前年8%)

【今週の見通し・戦略】

現段階では5月高値が、天候相場期の天井候補だが、産地の天候次第では、もう一波乱の可能性は残る。仮に、8月にかけて産地の干ばつ等が囃された場合、大豆主導で上値トライする場面が出てくるかもしれないが、米南部から、徐々に収穫が始まることで、農家売りが出やすくなる時間にも向かってくる。収穫期の下げ圧力は、中長期的には要注意。

Weekly-Report



C X 週間展望（7月19日～）

調査課 菊川 弘之

東京原油(1)

【先週レビュー】

先週レポートで「米マクロ経済指標の多くの改善が見込まれている中、原油と相関の高いNYダウの7月・月間騰落傾向は強気の時間帯。季節的には米ドライブシーズン・ハリケーンシーズンで、安値売り込みは避けたい時間帯。価格上昇にも関わらず、シェールの増産ペースも遅い。～中略）。

原油市場は短期的な買われ過ぎ感に対する調整は入っても、押し目は買われやすいか？」としたが、先週のNY原油（8月限）は、新型コロナウイルスの変異株であるデルタ株が世界中で流行していることが重しとなる中、協議が長引いている「石油輸出国機構（OPEC）プラス会合」が合意に近づいているとの見方から増産観測で売られる展開となった。これまでの協議の基本線は7月現在日量580万バレルの減産を8月～12月にかけて同40万バレルずつ縮小するというものだったが、現在のところ最終的な合意がどうなるのか報じられていない。

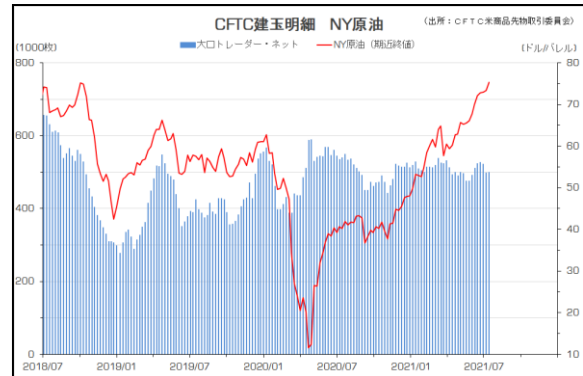
米国の生産量が停滞していることや、イラン核合意の再建協議が始まらないことが下値が限定的の要因。

【週末のNY市場】

NY原油（8月限）は、反発。主要産油国の協調減産の縮小観測で前日まで売りが続き、米株安などで下振れする場面もあったが、直近の安値を下回らなかったことで、週末を控えて持ち高調整の買いが優勢になった。注目されているOPECプラスの協議に大きな動きがなかったこともあり、様子見ムードも強かった。

ただ、新型コロナウイルスの変異ウイルスの感染拡大への警戒感も強く、上値は重かった。7月のミシガン大学消費者信頼感指数（速報値）は80.8と、事前予想の86.5を大きく下回った。景況感の悪化がエネルギー需要の伸びを抑えかねないとの見方を誘った。米国でも新型コロナで強い感染力を持つインド型（デルタ型）の割合が高まり、新規感染者数が増加傾向にある。世界的な感染再拡大による景気回復の遅れへの懸念もくすぶった。

CFTC建玉明細（7/13 現在）は、499,096枚の買い越し。前週（497,351枚の買い越し）から拡大。



Weekly-Report



C X 週間展望 (7月19日～)

調査課 菊川 弘之

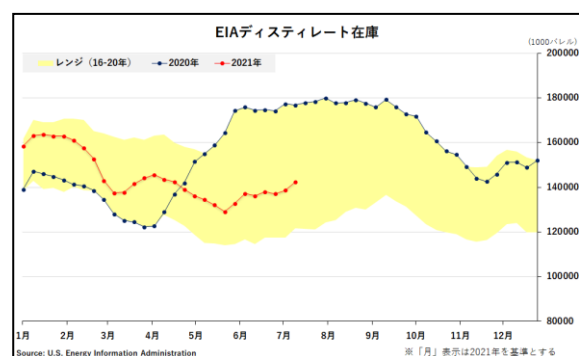
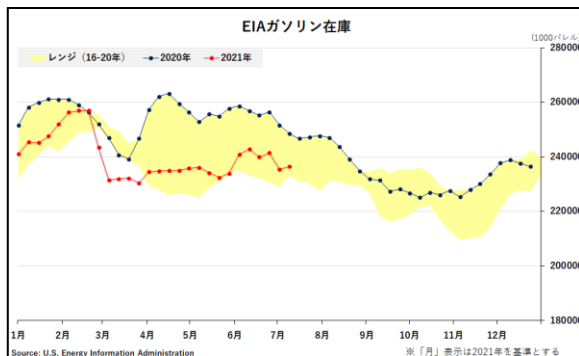
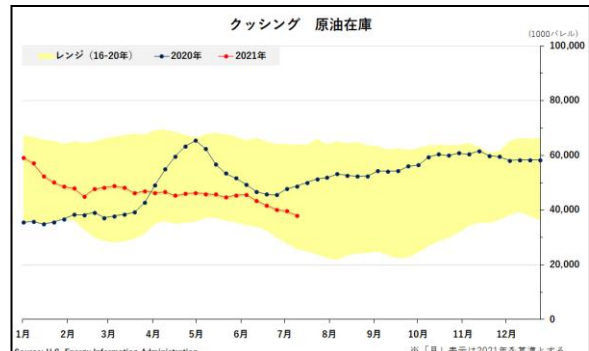
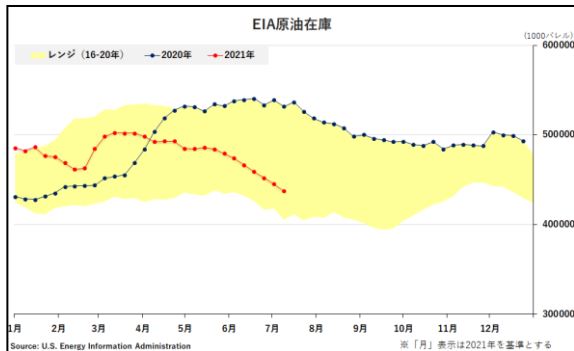
東京原油(2)

【EIA米週間在庫(エネルギー情報局)】

前週比

原油 4億3760万バレル
 クッシング 3805万バレル
 ガソリン 2億3650万バレル
 留出油 1億4230万バレル

790万バレル減少
 158万9000バレル減少
 100万バレル増加
 370万バレル増加



【石油連盟週報】

石油連盟週報(6月27日～7月3日)によると、ガソリンの週末在庫は、前週比6.2%減の216万5951キロリットル。灯油在庫は0.8%増の177万5791キロリットル。週間原油処理量は4.6%増の236万7104キロリットル。

推定出荷量は、ガソリンが16.8%増の86万1900キロリットル、灯油が19.7%増の7万7689キロリットル。

Weekly-Report



C X 週間展望（7月19日～）

調査課 菊川 弘之

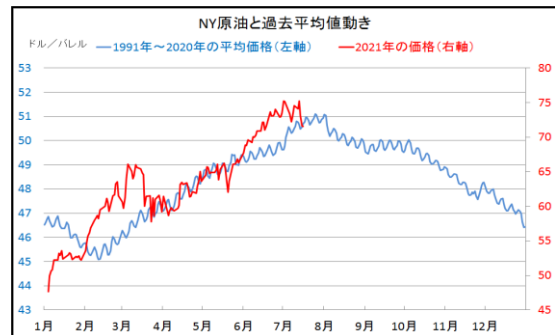
東京原油(3)

【石油掘削リグ稼働数（米石油サービス会社ベーカー・ヒューズ）】

16日までの1週間の国内の石油掘削リグ稼働数は前週比2基増の380基。これは2020年4月以来の高水準。国内の天然ガス掘削リグ稼働数は3基増の104基と、2020年3月以来の高水準となった。5週続伸は18年3月以来。

【原油相場見通し】

国際エネルギー機関（IEA）月報では、「OPECプラス」による減産縮小協議の決裂で「石油市場の需給が著しく逼迫する」可能性を指摘し、在庫水準の大幅減にも言及。増産を巡る協議の停滞が長引けば市場の逼迫や変動をもたらす恐れがあると警告、新型コロナウイルスのワクチン接種の進展で石油需要は急増しているとの認識を示した。



IEAは「OPECプラス」の減産緩和協議について「歩み寄るまでは生産規模が7月の水準にとどまることを意味する」とした。供給量が増えなければ新型コロナウイルス禍からの景気回復につれた需要増を賄えず、世界の石油需給が大きく引き締まるとみる。

IEAは「わずかだが、市場シェアを巡る争いが起きる可能性があり、これが市場の重しとなっている。また、燃料価格の上昇でインフレが進行し、脆弱な景気回復が腰折れする可能性も、市場の重しになっている」と表明。一部の国では感染拡大が依然として主要な下振れリスクだが、大半の先進国の石油在庫は歴史的な平均水準を大幅に下回っており、今年秋の石油在庫の取り崩しは、少なくとも過去10年で最大になると予想。「OPECプラス」の生産方針が明らかになるまで、石油市場は不安定な状態が続く公算が大きい。こうしたボラティリティは、秩序ある確実なエネルギー移行に寄与せず、生産者の利益にも消費者の利益にもならないとしている。

イラン核合意については、8月にライシ新大統領が就任するまで協議が再開されない見通し。

季節的には高値を付けやすい時間帯だが、夏高の後は、冬季需要が始まるまでは、需要の端境で下落傾向の時間となる。米戦略備蓄放出の動きにも注意。

Weekly-Report



C X 週間展望 (7月19日~)

調査課 菊川 弘之

【週間行事予定 (7/19~7/25)】

7月19日(月)	23:00	米国	7月	NAHB 住宅市場指数	
7月20日(火)	8:30	日本	6月	全国コア消費者物価指数 (CPI) (前年比)	0.1%
	8:30	日本	6月	全国消費者物価指数 (CPI) 総合 (前年比)	-0.1%
	15:00	ドイツ	6月	生産者物価指数 (PPI) (前月比)	1.5%
	21:30	米国	6月	建設許可件数	
	21:30	米国	6月	住宅着工件数	
	納会	米国	---	NY原油2021年8月限納会	
7月21日(水)	8:50	日本	6月	輸出 (前年比)	49.6%
	8:50	日本	6月	輸入 (前年比)	27.9%
	8:50	日本	6月	貿易収支	-189.4 (十億)
	納会	日本	---	東京石油製品2021年7月限納会日	
7月22日(木)	19:00	イギリス	7月	CBI 動向 - 受注	
	20:45	ユーロ圏	7月	ECB リファイナンス金利	0.00%
	20:45	ユーロ圏	7月	ECB 預金金利	-0.50%
	21:30	米国	7月12日, 週	新規失業保険申請件数	
	21:30	米国	7月5日, 週	継続失業保険受給総数	
	23:00	米国	6月	中古住宅販売戸数	
	23:00	米国	6月	中古住宅販売増減率	
	23:00	ユーロ圏	7月	消費者信頼感指数 速報値	-3.3
	---	ユーロ圏		ECB理事会 (フランクフルト)	
	休場	日本	---	海の日	
7月23日(金)	8:00	イギリス	7月	GfK 消費者信頼感指数	
	15:00	イギリス	6月	小売売上高 (前月比)	
	15:00	イギリス	6月	小売売上高 除燃料 (前月比)	
	16:30	ドイツ	7月	マークイット 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	65.1
	16:30	ドイツ	7月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	57.5
	16:30	ドイツ	7月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	60.1
	17:00	ユーロ圏	7月	マークイット 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	63.4
	17:00	ユーロ圏	7月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	58.3
	17:00	ユーロ圏	7月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	59.5
	17:30	イギリス	7月	総合購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	
	17:30	イギリス	7月	製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	
	17:30	イギリス	7月	サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	
	22:45	米国	7月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	
	22:45	米国	7月	マークイット 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	
	22:45	米国	7月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	
	休場	日本	---	スポーツの日	
		日本	---	東京2020オリンピック開会式	
7月24日(土)	4:30	米国	前週分	CFTC建玉明細	
7月25日(日)					

(※) 発表日時は日本時間

発表日時は作成段階のものであり、予告なしに変更される場合があります。

Weekly-Report

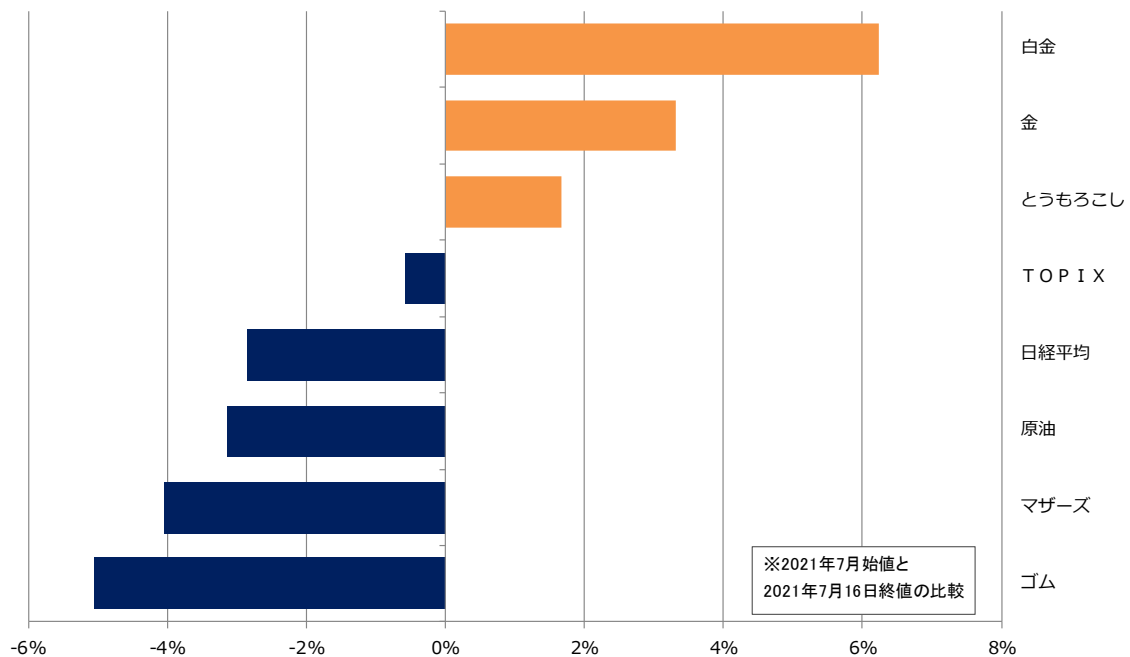


C X 週間展望 (7月19日~)

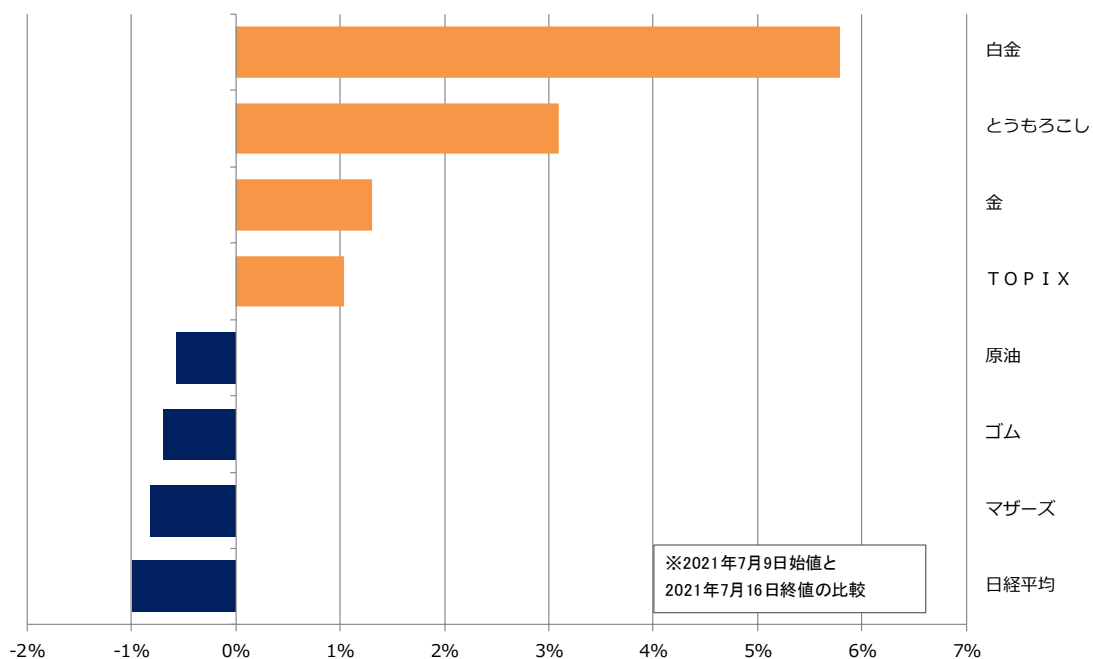
調査課 菊川 弘之

【騰落率(月間・週間)】

月間騰落率



週間騰落率



【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等> 日産証券株式会社（〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-38-11）

関東財務局長（金商）第 131 号 金融商品取引業者 商品先物取引業者

<加入協会> 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。